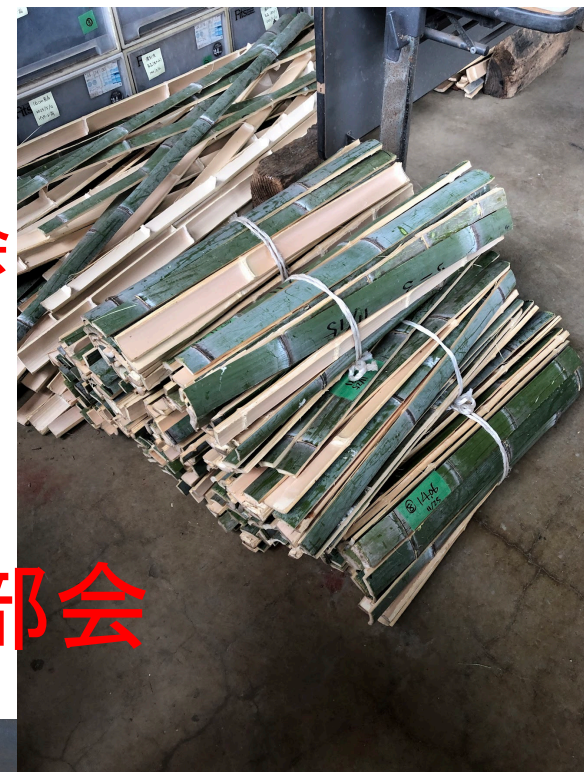




横浜市 自然体験施設
NPO都筑里山倶楽部 炭焼き部会

2023年11月度 炭焼き部会
レポート



2023/11/28



炭焼き部会 11月度 活動レポート

11月28日 文責 炭焼き部会 小山

- 2023年11月の炭焼きは、半ドラム缶コンロの 直火上での華炭焼きを実施。2024年度も7月と9月に炭焼きの代わりに実施予定
 - 11月15日(水) 今シーズン初となる次年度炭焼き用竹材の伐採 8本(B3エリア)実施
 - 11月18日(土) 竹炭焼きの代わりに 華炭作り、こも編み&みご(実子)ほうき作り 特別プログラムを実施。3家族、8名が参加
 - ドラム缶窯での竹炭焼きを中止し、半ドラム缶コンロ上での華炭焼きを実施。竹炭焼きは窯締までで12時間前後必要ですが、2時間程度で完成し、参加者が持ち帰れるメリットがあります
 - 11月25(土)薪割り と 竹材づくり(2024年度活動の竹材準備)
 - 1年継続中の竹割り&計量後の束(1束約10Kg)の状態での自然乾燥に加えて、長寸(3m)のまま保管し、利用開始 3~6カ月前に竹割りし、束ねて自然乾燥する方式での 乾燥による重量変化スピードのデータ取りを開始。伐採後の自然乾燥スピードダウンと防虫対策効果の検証が目的

華(花)炭とは？

- 華(花)炭とは、「飾り炭」とも呼ばれ、500年の歴史を持ち、古くから茶の湯の世界で菊炭＊と共に使用され、優雅で高尚なものとして珍重されてきたと言われています。木の実、葉、花、果物など素材そのままの形で炭化させてつくる炭の一種です。木炭、竹炭より比較的簡単に作ることができます。マツボックリやクリなど乾燥したものは短時間ででき、水分の多い果物などは少し時間がかかります。

＊ 菊炭へのリンク

— https://services.osakagas.co.jp/portalc/contents-2/pc/tantei/1274353_38851.html



プロの製品例

2022年12月からの竹伐採実績一覧と 2023年度 窯投入計画(案)

11月の竹炭焼きは中止し、
華炭焼きを実施

2022年12月からの伐採実績一覧表と2023年度 窯入れ(MK-2)での使用計画																	2023/3/24 現在の計画						
自然乾燥状態	表記		伐採から竹割りまでの屋外保管期間(日)	乾燥経過日数 下配時点	4月次入れ時点(日数)	使用月と部位	使用月と部位	使用月と部位	使用月と部位	経過月数	経過月数	経過月数	経過月数	経過月数	経過月数	経過月数	量	4					
ネットあり	成長期間	伐採日	伐採竹の本数	竹割り&初期計量日各表に表示	伐採から竹割りまでの屋外保管期間(日)	2023/3/24	2023/4/18	3ヵ月狙い	経過月数	6ヵ月狙い	経過月数	9～14ヵ月狙い	経過月数	9～14ヵ月狙い	経過月数	3m/1本(元口から末口に向かって3mピッチで切断し、-1～-4と表記)	総本数/3m長	68cmカット後の本数	元口側本数 肉厚	束数	末口側の本数 肉厚	束数	半年後の予想 利用可能な窯数 注2)
防虫ネットなし	4-5年 成長竹	2022/12/2	7	2022/12/3	1	111	136					12月元口	11.5			7本×1	7注1)	28	28	9	0	0	1
ネットあり	4-5年 成長竹	2022/12/14	7	2023/1/14	31	69	94	4月元口	3.1	7月末口	14.1	3月末口	14.1			7本×4	28	112	28	9	84	14	3
ネットあり	4-5年 成長竹	2023/1/14	7	2023/2/25	45	27	52					11月元口	8.7	1月末口	10.7	7本×4	28	112	28	9	84	14	3
ネットあり	1年 成長竹	2023/1/27	7	2023/3/11	43	13	38	6月元口	3.3	10月末口	7.3	2月末口	13.3			7本×4	28	112	28	9	84	14	3
ネットあり	3年 成長竹	2023/2/8	7	2023/2/11	3	41	66	5月元口	3.2	9月末口	7.2					7本×3	21	84	28	9	56	9	2
目的:1)3ヶ月、6ヵ月の自然乾燥期間にて、成長年の異なる 竹材(4-5年、3年、1年)での竹炭品質差を検証する 2)厚みの異なる(連続的な変化であるが)、元口側 竹材と 末口側 竹材による 竹炭品質差にも着目する																	注1)元口部分のみ炭焼き材に利用し、残りは正月薪りに使用 注2)半年の自然乾燥で初期重量が40%減少し、60Kg/1窯 必要との前提で試算 注3)MK-1は、解体し 先行して補修開始の予定、MK-2も 煙道曲がり部に損傷があるが、当面 継続して使用する。MK-1の改造進捗状況により、投入窯の見直しもあり					12	
管理できない誤差要因としては、①伐採から竹割りまでの屋外保管期間に最大44日の差が生じたこと ②今後、窯(MK-2)が1年間同じ状況で使用できるか？ 損傷の更なる増大がどこまで抑えられるか？ など 自然乾燥期間の開始は、竹割り 計量日をスタートとしている(伐採状態(3mの長さ)での初期重量測定や継続測定ができない為)																							

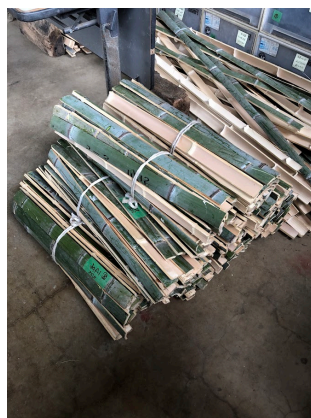
3年(2020年竹)～5年 成長の竹を伐採、3mに切断し運搬



2023/11

灰焼さ部芸 一般向リ レポート

竹林での伐採、運搬、①長寸3mのまま乾燥 ②高速カッターで定寸(68cm)へカット、竹割し束ねて(10Kg目標)乾燥 ①、②の重量変化を今後 毎月チェック



竹割し束(10Kg前後)にして
乾燥開始 束毎に重量変化をチェック
炭焼き部会 一般向け レポート



3m長寸のまま乾燥開始 長寸状態
での重量 5~20Kg/本

華炭、炭化の説明を聞き、缶の中へ素材を入れ密閉



竹炭焼きと華炭焼きの共通点、違いを説明



参加者 集合！



たくさんある自然素材にワクワク！ 水分の多い果物 と乾燥している
松ぼっくりや くるみは、別の缶へ



缶の中へいっぱい入れたよ！ どうなるか？
楽しみ！



華炭、半ドラム缶コンロ 直火の熱で炭化



半ドラム缶コンロの燃え盛っている直火の上に缶を置いて炭化開始



孔からまだ煙が出ている状態。箱上部の孔から煙が出なくなると炭化終了と判断



直火から取り上げ、空気を遮断して冷却
今回は、約1時間で炭化を終了させた



地中に穴を掘って 冷却させる缶を埋めて、空気を遮断しながら冷やす



冷却終了した缶を開く



出来上がった華炭 急激な炭化で、もろい華炭となっている と思われます

華炭づくり、缶への素材セットと 炭化、冷却後

ビフォー



水分の多い果実中心の素材



マツボックリ、クルミ、メタセコイアなどの素材



今回は、いずれの缶も
密に入れ過ぎでしたね！

アフター



2023/11/28



炭焼き部会 一般向け レポート

こも編み と じぐ



治具の準備と調整、これ
使えば 誰でもできる！



マンツーマンでの
指導を受けて、
スタート



1人で できるようになっ
て、夢中だよ！ どんど
ん長くなる こも



50～60分で編めた こも と スペシャルおやつ！



こも編み 楽しかった！ 36、
36、35、22cmでした



わたしが作ったよ！



ダッチオーブンで
焼いた焼芋

2023/11/28



細いけど、甘かった！

炭焼き部会 一般向け レポート



みご ほうき プロの作品例



- 「[みごほうき](#)」という名称、初めて聞いたという方もいるかもしれませんが、みご(実子)というのは、稲の穂先から第一節までのことで、フサフサとした柔らかい穂先を束ねて作られたのが「みごほうき」です。

みご ほうき 作り にチャレンジ

こも編みに使う わらを準備する過程で、カットした わらの穂先部分を使った ほうき



穂先を集めて、第一節で穂先をそろえる



この しばり方がポイントです できたよ！

2023/11/28

炭焼き部会 一般向け レポート

サツとはけるよ！ 楽しい